文化庁

鳥出神社の鯨船行事
稚児衣装新調事業報告書

令和３年度　補正予算事業

地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）

文化財愛護シンボルマーク

令和5年3月

三重県四日市市

富田鯨船保存会連合会

例　言

（１）本書は、国庫補助事業である「文化芸術振興費補助金　令和３年度補正予算事業地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）」を得て実施した、「重無民　鳥出神社の鯨船行事　稚児衣装復元新調事業」の報告書である。

（２）本書の執筆ならびに編集については、富田鯨船保存会連合会（会長　加藤正彦・中島組鯨船神徳丸保存会顧問）と百武打敷店及び四日市市シティプロモーション部文化課が共同で行った。

（３）重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の詳細については、平成14年３月に四日市市教育委員会が刊行した『北勢鯨船行事調査報告書』を参照されたい。

目　次

Ⅰ．国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

１．所有者名称…… 1

２．指定年月日…… 1

３．指定書の記号番号…… 1

４．行事の概要　…… 1

Ⅱ．修理事業の経過

１．修理の経緯…… 2

２．事業の経過…… 2

３．事業費に係る収支報告…… 5

Ⅲ．製作報告

１．製作委託…… 6

２．稚児衣装（どんざ）復元新調方針…… 6

３．北島組神社丸稚児衣装…… 6

４．中島組神徳丸稚児衣装……12

５．南島組感應丸稚児衣装……18

６．古川町権現丸稚児衣装……24

Ⅰ．国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

1．所有者名称

富田鯨船保存会連合会
北島組鯨船神社丸保存会
中島組鯨船神徳丸保存会
南島組鯨船感應丸保存会
古川町鯨船権現丸保存会

2．指定年月日

平成９年（1997）12月15日

3．指定書の記号番号

第340号

4．行事の概要

鯨船行事は、伝統的な捕鯨習俗を風流行事の中に取り入れたもので、鯨の発見と追跡、鯨の反撃、銛打ちなどの所作をストーリーをもって行う行事である。この行事は、四日市市を中心とした北勢地域にだけ分布しており、陸上の捕鯨行事として全国的に貴重である。平成元年（1989）２月27日には、三重県熊野地方の海上の模擬捕鯨行事とともに、「北勢・熊野の鯨船行事」として「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されている。また、平成28年（2016）12月１日には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に、全国33の団体の一つとして登録された。

「鳥出神社の鯨船行事」は、他の伝承地が鯨船山車１台で行事を行っていたり、祭礼の練りの一部として鯨船行事が伝承されたりしているような状況と比べ、一つの行事に４台の鯨船山車があり、それぞれが数町から十数町で構成される組単位になっているという特徴を有している。

鳥出神社の鯨船行事では、豪華な装飾が施された鯨船山車、神徳丸・神社丸・権現丸・感應丸（毎年４台のうち２～３台）が曳き出される。８月14日の朝、鳥出神社で各組の関係者による鎮火祭があり、その後それぞれの町で鯨船を曳き回す町練りが行われる。翌15日には、鳥出神社への奉納として境内で本練りが行われる。

鯨船山車は、150以上もの彫刻や幕などの部品で豪華に装飾されており、船体の上には屋形が組まれている。各組の鯨船山車は、寸法、装飾などが異なっており、例えば、船体装飾を大きく占める船体横幕の刺繍は、中島組神徳丸と南島組感應丸は龍と波（神徳丸は昼の穏やかな海を渡る図で、感應丸は夜の荒い海を渡る図）、神社丸は鯱と波、権現丸は千鳥と波となっており、それぞれに個性のある図柄が緋羅紗に施されている。

このように鯨船山車は華麗に装飾されているが、練りでは、山車を前後左右に大きく動かして海上で船が揺れる様子を表したり、急激に回転させたりと激しい動作をするため、山車の傷みが非常に早い。保存会では、小規模な破損については地元の協力も得て、自前で修復を行いながら行事を続けてきている。

Ⅱ. 修理事業の経過

1. 修理の経緯

国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」が平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録されたのち、平成31（令和元）年度から、文化庁の「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」を活用して、順次、鯨船山車の横幕や屋形屋根幕の修理を進めている。令和３年度に補正予算事業として、道具等修理も対象となる国庫補助が創設されたことから、富田鯨船保存会連合会として稚児衣装（どんざ）の復元新調事業を計画し、交付決定を受けて実施した。

2. 事業の経過

「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」事業の実施にあたっては、保存会は「鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会」を立ち上げた。稚児衣装復元新調事業は、「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」事業と並行して行うことから、同委員会の委員により修理指導を受けて本事業を進めた。

〔鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会〕

鬼頭秀明	（委員長）中京大学非常勤講師・四日市市文化財保護審議会委員
久志本まどか	（副委員長）民俗芸能研究者・四日市市文化財保護審議会委員
藤井健三	西陣織会館顧問
野村史隆	鳥羽市教育委員会嘱託職員・元海の博物館職員
山崎　剛	公立大学法人金沢美術工芸大学学長
加藤正彦	富田鯨船保存会連合会会長・中島組鯨船神徳丸保存会顧問
鈴木裕也	富田鯨船保存会連合会副会長・北島組鯨船神社丸保存会会長
道上秀則	富田鯨船保存会連合会会計・古川町鯨船権現丸保存会会長
渡部秀男	南島組鯨船感應丸保存会会長
伊藤公明	中島組鯨船神徳丸保存会会長

（1）関係文書・専門家指導等の経過

〔令和３年度〕

令和３年12月13日　指定文化財所有者へ事業創設について通知
令和４年１月14日　文化庁通知を受け、指定文化財所有者へ事業の募集を通知
１月25日　事前の専門家指導
２月２日　県教委を通じて交付要望書を提出

〔令和４年度〕

令和４年４月１日　文化芸術振興費補助金交付申請書を提出
４月28日　藤井健三氏による第１回修理指導
６月１日　補助金交付決定通知書受理
７月12日　山車修理指導委員会委員による第２回修理指導
８月14日・15日　鯨船行事実施（新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小して開催）
10月４日　山車修理指導委員会委員による第３回修理指導

令和５年２月27日　藤井健三氏による完成品の工房確認
２月28日　山車修理指導委員会委員及び文化庁調査官による完成品の検収
３月31日　事業報告書刊行及び補助金実績報告書提出

（２）修理指導の記録

第１回修理指導

日　時　令和４年４月28日（金）11：00～12：00
場　所　愛西市　百武打敷店
出席者　修理指導　藤井健三氏
保 存 会　加藤正彦会長
事 務 局　四日市市文化課
葛山拓也課長補佐・松原幹登指導主事
請負業者　百武打敷店

指導概要

・北島組どんざについて、裏地の絹を現品の青色に染めることができる業者を探して、同様の色合いにする。
・金糸の刺繍にどの色の綴じ糸を合わせるか、確認。基本的にコントラストを意識して組み合わせる。
・中島組の龍の目玉は、吹きガラスで製作する。
・南島組のどんざの付け襟の生地は今はもうないかもしれないので、類似の生地で製作する。
・古川町のどんざの生地は化学繊維（サテン）であることを確認。

第２回修理指導

日　時　令和４年７月12日（火）15：30～16：30
場　所　東富田町　東富田会館
出席者　修理指導　鬼頭秀明氏・久志本まどか氏・
藤井健三氏・山崎　剛氏
保 存 会　鈴木裕也副会長・
渡部秀男氏（南島組会長）・
伊藤則一氏（南島組副会長）
指導機関　三重県教育委員会社会教育・文化財保護課　宮原佑治主任
事 務 局　四日市市文化課　中野千幸課長・葛山拓也課長補佐・松原幹登指導主事
請負業者　百武打敷店

指導概要

・綴じ糸の色を、切付ができているところで確認。
・全体的に、綴じ糸は細かくして、浮かないようにしていく。
・北島組のどんざについて、現品の肩上げは必要性がないので、図柄をうまくつなげて製作する。
・現品は帯を巻く部分に刺繍をしていないが、帯の位置は子どもによって変わるので、刺繍はつなげる。

・中島組のどんざは、図柄が襟に掛からないように仕上げる。
・図柄を微調整する必要があるところは、藤井先生に確認しながら進める。

第３回修理指導

日　時　令和４年10月４日（火）14：00～14：30
場　所　東富田町　東富田会館
出席者　修理指導　鬼頭秀明氏・久志本まどか氏・藤井健三氏・野村史隆氏・山崎　剛氏
保 存 会　加藤正彦会長・鈴木裕也副会長・渡部秀男氏（南島組会長）・
伊藤則一氏（南島組副会長）
指導機関　文化庁　加藤基樹調査官
三重県教育委員会社会教育・文化財保護課　宮原佑治主任
事 務 局　四日市市文化課　中野千幸課長・葛山拓也課長補佐・松原幹登指導主事
請負業者　百武打敷店

指導概要

・北島組の鳳凰の切付について、肩上げをなくし、図柄を微調整して一体となっていることにより、翼がやや大きくなっているが、自然な仕上りになっている。
・現品は劣化して顔の辺りがほとんど分からないが、輪郭がたどれるので復元できた。
・現品から修正する必要のある部分については、随時、藤井先生に写真を送りながら指導を受けて進めた。
・現品は戦後の製作と思われ、よれたりずれたり劣化が激しい。

完成品検収

日　時　令和５年２月28日（火）14：45～15：15
場　所　東富田町　東富田会館
出席者　修理指導　鬼頭秀明氏・久志本まどか氏・藤井健三氏・野村史隆氏
保 存 会　加藤正彦会長・鈴木裕也副会長・伊藤則一氏（南島組副会長）・
伊藤泰広（中島組副会長）
指導機関　文化庁　加藤基樹調査官
三重県教育委員会社会教育・文化財保護課　宮原佑治主任
事 務 局　四日市市文化課　中野千幸課長・葛山拓也課長補佐・松原幹登指導主事
請負業者　百武打敷店

概　要

・きれいに出来上がっている。完成と認める。
・これだけ見事であるので、子どもに対するイベント等活用を十分に図ってほしい。
・こうした伝統的な衣装があることをまだ知らない人も多いと思われるので、まず知ってもらうことが必要である。
・保管方法として、吊るさず適当なサイズの箱に極力折らずに寝かせ、折る場合は刺繍の部位を避け筒状のまくらをかませる。布の表面には薄用紙を挟む。

３．事業費に係る収支報告

収入の部

科　目	収入額
保存会負担	62,000円
国庫補助金	12,238,000円
合　計	12,300,000円

支出の部

科　目	支出額
製作請負費	12,237,500円
報償費・旅費等	62,500円
合　計	12,300,000円

令和４年　町練り

Ⅲ. 製作報告

1. 製作委託

百武打敷店　　愛知県愛西市大井町石池106番地
店　主　　百武 信子
技術者　　百武 弓弦（祭屋台等製作修理技術者会会員）

2. 稚児衣裳（どんざ）復元新調方針

鳥出神社の鯨船行事の四町（北島組、中島組、南島組、古川町）の各稚児衣装（どんざ）の復元新調業務にあたり、国庫補助事業としての業務遂行に十分留意し、別途設置している鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会の監修指導者、文化庁担当官、三重県および四日市市行政担当者及び保存会代表者との検討合議の上、材料選定から仕立て加工までの各製作工程において、熟練技術を駆使して、十分な品質管理のもとに製作を行う。

3. 北島組神社丸稚児衣装〈瑞雲に鳳凰〉

（1）製作仕様

≪素　　材≫

表地裂・衿	黒色　綿別珍
裏　地　裂	青色　正絹平織羽二重
図柄刺繍糸	本金糸（本金山吹４号箔　純金94.43%、純銀4.91%、純銅0.66%）
	綴じ糸　フジックス タイヤー　正絹ミシン糸50番
	生絹色糸（国産絹100%　28デニール/14片）
仕 立 て 糸	木綿カタン糸
	フジックス タイヤー　正絹手縫い糸9号
そ　の　他	鳳凰（切付）の各部描線加工　紙紐
	嘴（切付）、尾羽の末端模様の肉入れ（基布に直縫い）　不織布
	袖口および身頃裾周りの肉入れ　混紡綿（綿90%　ポリエステル10%）

≪刺繍技法≫（刺繍図案　鳳凰）

鳳凰本体（切付刺繍）　金糸の駒縫い
尾羽・尾羽の末端模様・瑞雲（基布に直縫い刺繍）　金糸の駒縫い
※刺繍仕様の詳細については後記の刺繍製作仕様(一覧表）参照

≪仕 立 て≫（和裁手刺繍仕立て）

着物仕立て基本技法により、現品に倣って、手縫い縫製にて丁寧かつ堅牢に仕立てる。仕立て変更箇所については、関係各位と連携を取り協議の上、適宜最適と思われる変更手法を用いて仕立てる。

仕立て寸法については、経年使用による歪みと変形が見られるため、保存会の意向を尊重し、一部変更し最適寸法を割り出した。その他の仕様は、現品に忠実に仕立てる。

寸法（概寸）

・身丈…８５０mm　　・肩巾…２７５mm
・袖丈…４７０mm　　・袖巾…２９０mm

＜現　品＞

＜新調品＞

（２）刺繍製作仕様（一覧表）

①切付刺繍（鳳凰）

部　　位	技　法	素　　材
顔・胴体	駒縫い	丸金糸４号色（８,９掛） 撚金糸４号色（４,５掛） （丸金糸と撚金糸の抱合せ） 綴じ糸／正絹ミシン糸　赤 （紙紐で下地の描線加工）

部　　位	技　法	素　　材
羽	駒縫い	丸金糸4号色（9,10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤 （紙紐で下地の描線加工）
嘴	駒縫い	丸金糸4号色（7掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤 （不織布で肉入れ加工）
鶏冠	駒縫い	丸金糸4号色（8, 9掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤 （紙紐で下地の描線加工）
目玉周り	駒縫い	丸金糸4号色（7掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄 （紙紐で下地の描線加工）
目玉	切付刺繍裏面 から嵌入して固定	強化プラスチック樹脂

②基布に直縫い刺繍（尾羽、瑞雲）

部　　位	技　法	素　　材
尾羽	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 32）
尾羽の末端模様	駒縫い	丸金糸4号色（8掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74） （不織布で下地の肉入れ加工）
瑞雲	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤
脚	駒縫い	撚金糸4号色（7掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤
脚の筋	疋田掛け	正絹撚糸（黒　2本×2本諸撚り）

③基布に直縫い刺繍（かけ衿の文字）

部　　位	技　法	素　　材
左右衿文字　鯨取	駒縫い	丸金4号色（6掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 62）
衿背紋 社紋（左巴）	駒縫い	本金4号色（7掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 62）

（３）各工程と技法の詳細

①現品分析・材料選定および調達

金糸選定

現品に使用されている金糸の種類（丸金又は撚金）、太さ、箔の色目に合せる。

基布選定

現品に使用されている生地の素材、織組織、色目を分析し、現状で入手可能な生地の候補から最適な生地を採用する。

②刺繍図案の下絵と構図作製

鳳凰（切付）と基布直縫い（尾羽、瑞雲）の下絵と構図作製

現品の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正

≪仕様の変更≫

ａ　肩上げ部分

・現品は、肩上げ仕立てで、鳳凰（切付）の胴体と左右の羽が別縫いされている。

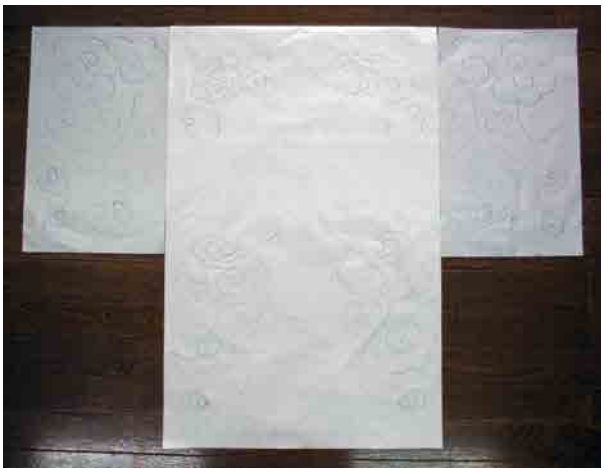
・新調品は、肩上げ仕立てせず、鳳凰（切付）と左右の羽を一体化して下絵作製する。

・左右の羽の形状と大きさを変更して、全体の図案のバランスを整える。

ｂ　帯部分

・現品は、鳳凰（切付）の下に伸びる尾羽が、途中、帯締め部で切れている。

・新調品は、尾羽の流れを意識して、尾羽を繋げて下絵を作製する。



③切付刺繍（鳳凰）の作製

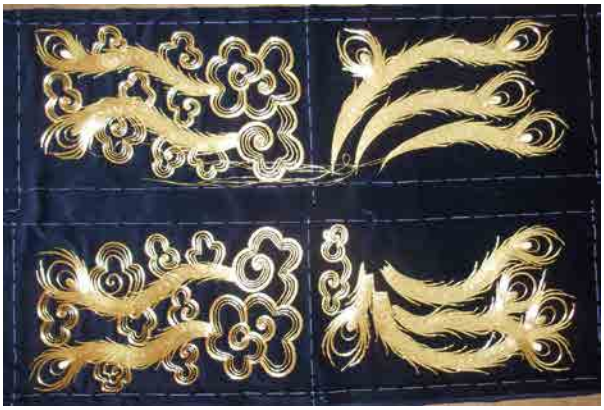
作製した下絵を和紙に描き写して切り出したものを、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。紙紐で描線の形を作り、その上から図案に忠実に丸金糸および撚金糸で駒縫い刺繍する。

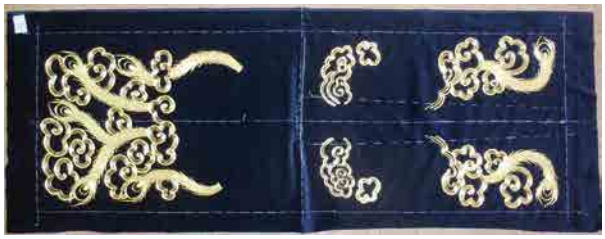
＜切付刺繍　完成＞

④基布直縫い（尾羽・瑞雲・脚）の作製

基布直縫いの尾羽と瑞雲の下絵を基布の所定の位置に置き、描線を下絵に忠実に描く。

尾羽は、末端の模様を不織布で肉入れ加工した後、丸金糸で駒縫い刺繍し、下絵の描線に忠実に末端から丸金糸で駒縫い刺繍する。瑞雲は、下絵の描線に忠実に丸金糸で駒縫い刺繍する。鳳凰の切付は、脚を撚金糸で駒縫い刺繍した後、尾羽の直縫い刺繍の上にかぶせて基布に取り付ける。

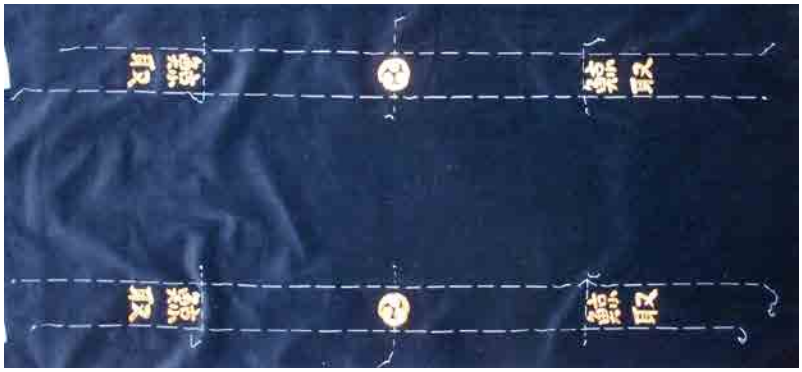




⑤かけ衿の文字（鯨取）・衿背紋（社紋/左巴）の作製

左右のかけ衿の所定の位置に、文字（鯨取）を丸金糸で駒縫い刺繍する。

後衿の所定の位置に、背紋（社紋/左巴）を丸金糸で駒縫い刺繍する。



⑥仕立て

現品衣装に倣い、仕立て寸法に忠実に仕立てる。駒縫いで文字を刺繍したかけ衿を付け、袖口と身頃裾周りに混紡綿を肉入れして、手縫い縫製で堅牢に仕立てる。

４．中島組神徳丸稚児衣装〈松竹梅に鳳凰〉

（１）製作仕様

≪素材≫

表地裂・かけ衿	黒色　正絹塩瀬
裏　地　裂	青色　正絹平織羽二重
図柄刺繍糸	本金糸（本金山吹４号箔　純金94.43％、純銀4.91％、純銅0.66％）
	綴じ糸　フジックス タイヤー　正絹ミシン糸50番
	生絹色糸（国産絹100％　28デニール/14片）
仕 立 て 糸	木綿カタン糸
	フジックス タイヤー　正絹手縫い糸9号
そ　の　他	鳳凰（切付）の各部肉入れ　真綿（綿100％）と紙紐
	尾羽の末端模様（基布に直縫い）の描線加工　紙紐
	松の節（基布に直縫い）の肉入れ　木綿フランネル裂
	袖口および身頃裾周りの肉入れ　混紡綿（綿90％　ポリエステル10％）

≪刺繍技法≫（刺繍図案　鳳凰）

鳳凰本体（切付刺繍）　金糸と正絹撚糸の駒縫い、縫いきり

尾羽・尾羽の末端模様（基布に直縫い刺繍）　金糸と正絹撚糸の駒縫い、縫いきり

松竹梅（基布に直縫い刺繍）　金糸と正絹撚糸の駒縫い、縫いきり

※刺繍仕様の詳細については後記の刺繍製作仕様（一覧表）参照

≪仕立て≫（和裁手刺繍仕立て）

着物仕立て基本技法により、現品に倣って、手縫い縫製にて丁寧かつ堅牢に仕立てる。仕立て変更箇所については、関係各位と連携を取り協議の上、適宜最適と思われる変更手法を用いて仕立てる。

仕立て寸法については、経年使用による歪みと変形が見られるため、ご町内の意向に従い、一部変更し最適寸法を割り出す。その他の仕様は、現品に忠実に仕立てる。

寸法（概寸）

・身丈…８００mm
・肩巾…２４５mm
・袖丈…４７０mm
・袖巾…２９０mm

＜現　品＞

＜新調品＞

（２）刺繍製作仕様（一覧表）

①切付刺繍（鳳凰）

部　　位	技　法	素　　材
胴体・羽	駒縫い	丸金糸４号色（10,12,14 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸 朱（色番 32）、青（色番 138）、黄（色番 74） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
顔	駒縫い	撚金糸４号色（４掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74）

部　　位	技　法	素　　材
嘴 嘴と顔にかかる筋	駒縫い 縫いきり	丸金糸4号色（7掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74） 正絹撚糸（白 2本×2本諸撚り）
鶏冠	駒縫い	丸金糸4号色（8掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74）
羽の前縁 目玉周り	紙紐にコイル巻	丸金糸4号色（9掛） 丸金糸4号色（4掛）
目玉	切付刺繍裏面から 嵌入して固定	ソーダガラス

②基布に直縫い刺繍（尾羽、松竹梅）

部　　位	技　法	素　　材
尾羽	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤
尾羽の末端模様	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74） 正絹撚糸（紫濃淡 3本×3本諸撚り） （紙紐で下地の描線加工）
松の幹・枝・松葉	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 62） （紙紐で下地の描線加工）
松ぼっくり	駒縫い	撚金糸4号色（4掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74） （木綿フランネル裂で下地の肉入れ加工）
松の幹の節 縁周り	駒縫い 紙紐にコイル巻	丸金糸4号色（8掛） 撚金糸4号色（5掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 74） （木綿フランネル裂で下地の肉入れ加工） 丸金糸4号色（4掛）
笹（金）	駒縫い	丸金糸4号色（10 掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 62）
笹（緑） 笹の筋	縫いきり 駒縫い	正絹撚糸（緑 3本×3本諸撚り） 丸金糸4号色（6掛、8掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　朱（色番 62）
梅（紅、白） しべ	縫いきり	正絹撚糸（ピンク 3本×3本諸撚り） 正絹撚糸（白 3本×3本諸撚り） 正絹撚糸（白 2本×2本諸撚り）

（3）各工程と技法の詳細

①現品分析・材料選定および調達

金糸選定

現品に使用されている金糸の種類（丸金又は撚金）、太さ、箔の色目に合せる。

正絹糸選定

現品に使用されている正絹糸の染め色と撚り方および太さに合せる。

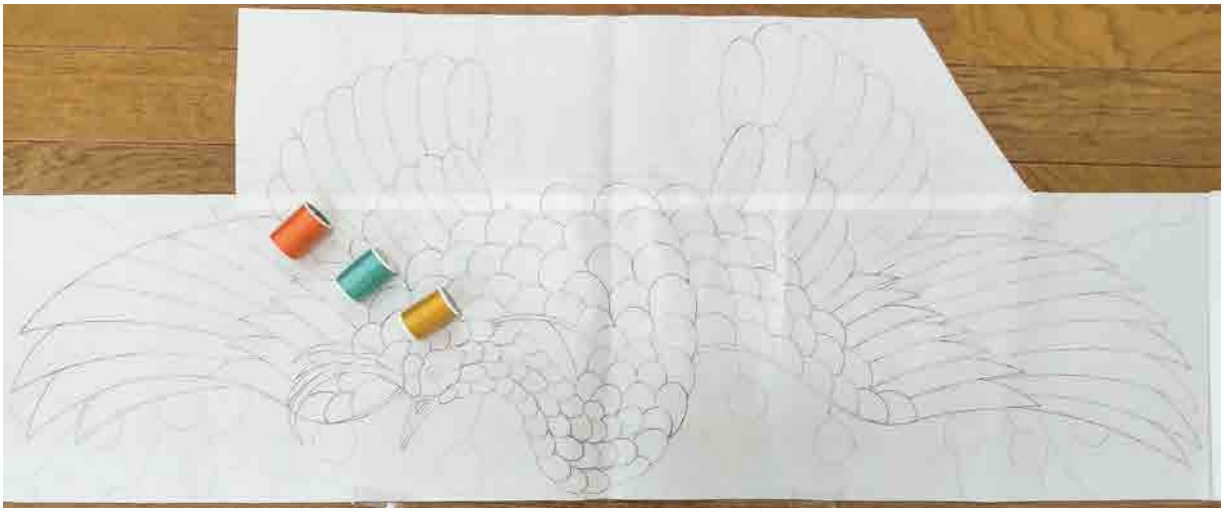
基布選定

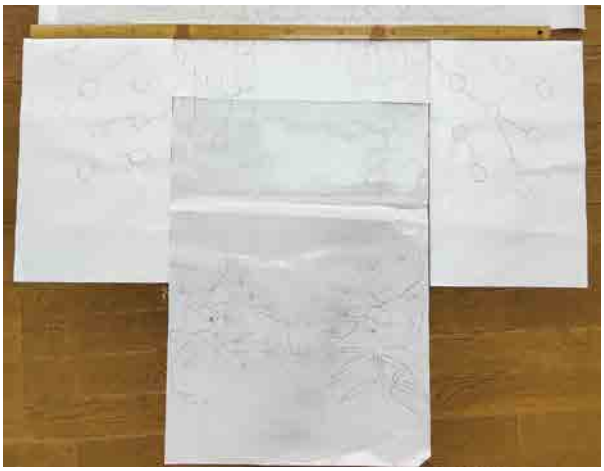
現品に使用されている生地の素材、織組織、色目を分析し、現状で入手可能な生地の候補から最適な生地を採用する。

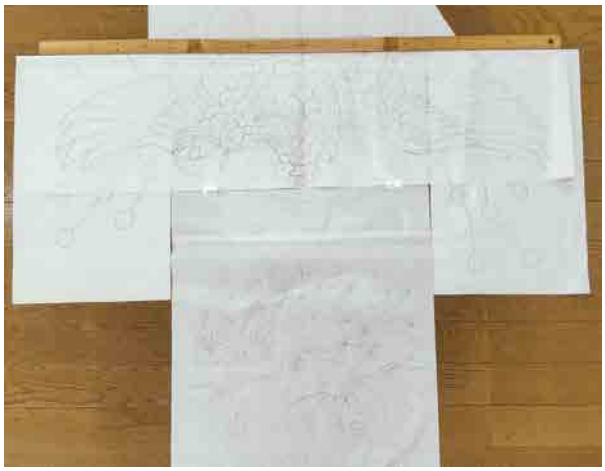
②刺繍図案の下絵と構図作製

鳳凰（切付）と基布直縫い（尾羽・松竹梅）の下絵と構図作製

現品の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正







③切付刺繍（鳳凰）の作製

作製した下絵を和紙に描き写して切り出したものを、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。紙紐で描線の形を作り、肉入れ箇所には真綿を綴じ付け、糊で固めて形を作る。

その上から図案に忠実に、丸金糸および撚金糸で駒縫い刺繍する。

＜切付刺繍　完成＞

④基布直縫い（尾羽・松竹梅）の作製

基布直縫いの尾羽と松竹梅の下絵を基布の所定の位置に置き、描線を下絵に忠実に描く。

尾羽は、末端の模様を紙紐で描線加工して丸金糸で駒縫い刺繍し、下絵の描線に忠実に末端から丸金糸で駒縫い刺繍する。松竹梅は、下絵の描線に忠実に、丸金糸、撚金糸、正絹撚糸で駒縫い、縫いきり刺繍する。鳳凰の切付は、尾羽の直縫い刺繍の上にかぶせて基布に取り付ける。

⑤仕立て

現品衣装に倣い、仕立て寸法に忠実に仕立てる。

袖口と身頃裾周りに混紡綿を肉入れして、手縫い縫製で堅牢に仕立てる。

5．南島組感應丸稚児衣装〈雲龍〉

（1）製作仕様

≪素材≫

表地裂・かけ衿	黒色　綿別珍
裏　地　裂	白色　平織木綿
図柄刺繍糸	本金糸（本金山吹４号箔　純金94.43％、純銀4.91％、純銅0.66％）
	本金糸（本金山吹５号箔　純金90.09％、純銀9.09％）
	綴じ糸　フジックス タイヤー　正絹ミシン糸50番
	正絹糸（国産絹100％　28デニール/14片）
仕 立 て 糸	木綿カタン糸
	フジックス タイヤー　正絹手縫い糸9号
そ　の　他	龍（切付）の各部肉入れ　真綿（綿100％）と紙紐
	龍（切付）の基布取付け時の肉入れ　混紡綿（綿90％　ポリエステル10％）
	社紋（基布に直縫い）の肉入れ　不織布
	袖口および身頃裾周りの肉入れ　混紡綿（綿90％　ポリエステル10％）

≪刺繍技法≫（刺繍図案　雲龍）

龍本体（切付刺繍）　金糸と正絹撚糸の駒縫い、縫いきり

社紋・龍の背景（基布に直縫い刺繍）　金糸、プラチナ糸、正絹撚糸の駒縫い

※刺繍仕様の詳細については後記の刺繍製作仕様（一覧表）参照

≪仕立て≫（和裁手刺繍仕立て）

着物仕立て基本技法により、現品に倣って、手縫い縫製にて丁寧かつ堅牢に仕立てる。仕立て変更箇所については、関係各位と連携を取り協議の上、適宜最適と思われる変更手法を用いて仕立てる。

仕立て寸法については、経年使用による歪みと変形が見られるため、保存会の意向に従い、一部変更し最適寸法を割り出す。その他の仕様は、現品に忠実に仕立てる。

寸法（概寸）

・身丈…８４０mm
・肩巾…２８０mm
・袖丈…４７０mm
・袖巾…２９０mm

＜現　品＞

＜新調品＞

（２）刺繍製作仕様（一覧表）

①切付刺繍（龍）

部　　位	技　法	素　　材
顔・胴体	駒縫い	撚金糸４号色（４, ５掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　赤、黄（色番 74） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
腹	駒縫い	撚金糸５号色（５掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸　黄（色番 74） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
牙・耳	縫いきり	正絹撚糸（白　３本×３本諸撚り） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）

部　　位	技　法	素　　材
舌	縫いきり	正絹撚糸（赤　3本×3本諸撚り） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
眉毛	綴じ縫い	丸金糸4号色（1掛） 正絹撚糸 （緑　3本×3本×丸金1掛 金絡み諸撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸　緑（色番 35）
角	駒縫い	丸金糸4号色（4掛） 正絹撚糸 （白　5本×紺半本×青半本×丸金4掛 金絡み片撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸　白 （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
髭・口周り・目玉周り	紙紐にコイル巻	丸金糸4号色（5掛） 正絹撚糸（黒　2本×2本諸撚り）
目玉	切付刺繍裏面から 嵌入して固定	ソーダガラス

②基布に直縫い刺繍（社紋・龍の背景）

部　　位	技　法	素　　材
社紋（左巴）	駒縫い	撚金糸4号色（5掛） 綴じ糸／正絹ミシン糸　黄（色番 74） （不織布で肉入れ加工）
渦雲	駒縫い	丸金糸4号色（12 掛） 綴じ糸／正絹ミシン糸　黄（色番 74）
稲妻	駒縫い	丸金糸4号色（1掛） 正絹撚糸 （朱 14 本×2本×丸金 1 掛 金絡み片撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸　朱（色番 62）
炎	駒縫い	正絹撚糸（朱　6本×1本片撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸　朱（色番 62）
宝珠	駒縫い	丸金糸4号色（9掛） 正絹撚糸（朱　3本×3本諸撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸 黄（色番 74）、朱（色番 62） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）

部　　位	技　法	素　　材
龍の手	駒縫い	撚金糸4号色（4掛） 正絹撚糸（白 3本×3本諸撚り） 綴じ糸／正絹ミシン糸　白、黄（色番 74） （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
龍の爪	駒縫い	プラチナ丸金糸（9掛） 綴じ糸／正絹ミシン糸　白 （紙紐と真綿で下地の描線と肉入れ加工）
龍の口髭	駒縫い	撚金糸4号色（5掛） 綴じ糸／正絹ミシン糸　黄（色番 74）
ふり毛	駒縫い	撚金糸4号色（4掛） 綴じ糸／正絹ミシン糸　黄（色番 74）

③基布に直縫いミシン刺繍（かけ衿の文字）

部　　位	技　法	素　　材
右衿文字　南組 左衿文字　鯨取	ミシン刺繍	ソフト金４号色

（3）各工程と技法の詳細

①現品分析・材料選定および調達

金糸選定

現品に使用されている金糸の種類（丸金又は撚金）、太さ、箔の色目に合せる。

正絹糸選定

現品に使用されている正絹糸の染め色と撚り方および太さに合せる。

基布選定

現品に使用されている生地の素材、織組織、色目を分析し、現状で入手可能な生地の候補から最適な生地を採用する。

②刺繍図案の下絵と構図作製

龍（切付）と基布直縫い（龍の背景）および社紋（左巴）の下絵と構図作製

現品の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正

③切付刺繍（龍）の作製

作製した下絵を和紙に描き写して切り出したものを、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。

紙紐で描線の形を作り、肉入れ箇所には真綿を綴じ付け、糊で固めて形を作る。

その上から図案に忠実に、撚金糸、丸金糸、正絹撚糸で駒縫い刺繍する。

＜切付刺繍　完成＞

④社紋および基布直縫い文様の作製

社紋は、基布の所定の位置に不織布を貼り肉入れ加工して、その上に撚金糸で駒縫い刺繍する。

基布直縫い（龍の背景）の下絵を基布の所定の位置に置き、描線を下絵に忠実に描く。

渦雲と稲妻文様は、丸金糸と正絹撚糸で基布に駒縫い刺繍する。龍の手と爪、宝珠は、紙紐と真綿で下地の形と肉入れを作り、その上から撚金糸、プラチナ糸、丸金糸、正絹撚糸で基布に駒縫い刺繍する。龍の口髭とふり毛を撚金糸で基布に駒縫い刺繍し、その上に龍の切付を混紡綿で肉入れして、基布に取り付ける。

最後に、龍の切付の上にかぶせて、火炎を正絹撚糸で基布に駒縫い刺繍する。

⑤仕立て

現品衣装に倣い、仕立て寸法に忠実に仕立てる。

ミシン刺繍で文字を刺繍したかけ衿を付け、袖口と身頃裾周りに混紡綿を肉入れして、手縫い縫製で堅牢に仕立てる。

6．古川町権現丸稚児衣装〈鳳凰〉

（1）製作仕様

≪素材≫

表地裂・かけ衿	黒色　ベルベット
裏　地　裂	白色　サテン
図柄刺繍糸	本金糸（本金山吹４号箔　純金94.43％、純銀4.91％、純銅0.66％）
	綴じ糸　フジックス タイヤー　正絹ミシン糸50番
	生絹色糸（国産絹100％　28デニール/14片）
仕 立 て 糸	木綿カタン糸
	フジックス タイヤー　正絹手縫い糸9号
そ　の　他	鳳凰（切付）の基布取付け時の肉入れ　混紡綿（綿90％　ポリエステル10％）
	社紋（基布に直縫い）の肉入れ　不織布
	袖口および身頃裾周りの肉入れ　混紡綿（綿90％　ポリエステル10％）

≪刺繍技法≫（刺繍図案　鳳凰）

鳳凰本体・白尾羽・金尾羽の末端模様（切付刺繍）　金糸と正絹撚糸の駒縫い、縫いきり

社紋・金尾羽（基布に直縫い刺繍）　金糸の駒縫い

※刺繍仕様の詳細については後記の刺繍製作仕様（一覧表）参照

≪仕立て≫（和裁手刺繍仕立て）

着物仕立て基本技法により、現品に倣って、手縫い縫製にて丁寧かつ堅牢に仕立てる。仕立て変更箇所については、関係各位と連携を取り協議の上、適宜最適と思われる変更手法を用いて仕立てる。

仕立て寸法については、現品に忠実に仕立てる。

寸法（概寸）

・身丈…８５０mm
・肩巾…２８０mm
・袖丈…４７０mm
・袖巾…２９０mm

＜現　品＞

＜新調品＞

（２）刺繍製作仕様（一覧表）

①切付刺繍（鳳凰）

部　　位	技　法	素　　材
顔・胴体・羽	縫いきり 相良縫い	正絹撚糸 （朱、白、緑、オレンジ、水色、紫、ピンク、グレー 各3本×3本諸撚り）
嘴	縫いきり	正絹撚糸（グレー ２本×２本諸撚り） （紙紐と肉糸で下地の描線と肉入れ加工）
目	縫いきり	正絹平糸 （白、黒）
鶏冠	相良縫い	正絹撚糸（赤 ２本×２本諸撚り）

部　　位	技　法	素　　材
白尾羽	駒縫い	正絹撚糸（白 6本×1本片撚り） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸 白
金尾羽の末端模様	縫いきり	正絹撚糸（紫、黄緑 各2本×2本諸撚り）
縁周り	駒縫い	丸金糸４号色（８掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸 赤

②基布に直縫い刺繍（社紋・金尾羽）

部　　位	技　法	素　　材
社紋（左巴）	駒縫い	撚金糸4号色（５掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸 黄（色番 74） （不織布で肉入れ加工）
金尾羽	駒縫い	丸金糸4号色（８掛） 綴じ糸 / 正絹ミシン糸 黄（色番 74）

③基布に直縫いミシン刺繍（かけ衿の文字）

部　　位	技　法	素　　材
右衿文字　古川町 左衿文字　権現丸	ミシン刺繍	ソフト金4号色

（３）各工程と技法の詳細

①現品分析・材料選定および調達

金糸選定

現品に使用されている金糸の種類（丸金又は撚金）、太さ、箔の色目に合せる。

正絹糸選定

現品に使用されている正絹糸の染め色と撚り方および太さに合せる。

基布選定

現品に使用されている生地の素材、織組織、色目を分析し、現状で入手可能な生地の候補から最適な生地を採用する。

②刺繍図案の下絵と構図作製

鳳凰（切付）と金尾羽（基布直縫い）および社紋（左巴）の下絵と構図作製

現品の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正

③切付刺繍（鳳凰）の作製

作製された下絵を和紙に描き写して切り出したものを、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。

各色正絹撚糸で図案に忠実に刺繍し、丸金糸で縁周りを駒縫い刺繍する。

＜切付刺繍　完成＞

④社紋および金色尾羽（基布直縫い）の作製

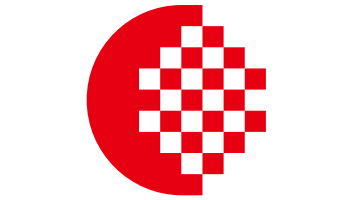
社紋（左巴）は、基布の所定の位置に不織布を貼り肉入れ加工して、その上に撚金糸で駒縫い刺繍する。

金尾羽は、末端模様の切付刺繍を基布の所定の位置に取り付け、下絵の描線に忠実に末端から丸金糸で駒縫い刺繍する。鳳凰の切付は、混紡綿で肉入れして基布に取り付ける。

⑤仕立て

現品衣裳に倣い、仕立て寸法に忠実に仕立てる。

ミシン刺繍で文字を刺繍したかけ衿を付け、袖口と身頃裾周りに混紡綿を肉入れして、手縫い縫製で堅牢に仕立てる。



Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

令和５年３月30日　発行

鳥出神社の鯨船行事　稚児衣装新調事業報告書

令和３年度　補正予算事業

地域文化財総合活用推進事業（地域の伝統行事等のための伝承事業）

編集　富田鯨船保存会連合会
百武打敷店
四日市市
発行　富田鯨船保存会連合会
印刷　阿竹印刷工業株式会社